

『評価結果を活動に生かす-計画・評価調書を読む-』

1. 日時：2024年11月23日（土）15:00～17:00
2. 会場：ZOOM開催
3. 講師：鎌田 徳幸（政策21 元理事長・当法人創設メンバー）
4. 参加者：14人（会員・一般：13人、町議会議員：1人）

5. 概要

これまでの政策評価の課題や論点をふまえつつ、公開されている「評価調書」の読み方、評価結果を市民セクターの活動に生かすにはどうしたらよいか、事例を通じて「政策評価」の実態、現状と課題の共有し、市民が「評価」を身近に感じ、生かしていく方法や方向性などについて、意見交換しました。

6. 参加者アンケート（回答者7名、回答率50%）より （回答結果）

Q1. セミナーの内容について、「よく理解できた」28.6%及び「おおむね理解できた」57.1%。合わせると、85.7%を占めました。

Q2. セミナーの開催時間について、「ちょうどよかった」の回答が、85.7%を占めました。

Q3. セミナー全体を通しての満足度については、「満足」が57.1%、「おおむね満足」が28.6%。合わせると、85.7%となりました。

（感想より）

印象に残ったことやキーワードとして、「全体的に、行政目線での仕組みになっているように感じている。」「組織に引っ張られる政策は機能しない。」「評価結果が多数公表されていることが分かった。評価結果は、市民の知りたい内容とは異なった観点から記されている印象が強かった。」との回答がありました。

もっと深く知りたいと思ったこととして、「県と各自治体は共通の事業をおこなっているのので、施策が有効かどうか議論するべきではないか。」との声や「行政の計画及び評価についてのガバナンスのあり方を深く知りたいと思った。」「市町村段階での評価内容を比較してみると、特徴があるのではないか。」という回答がありました。

今後の活動等に活かしていきたいと思ったこととして、「施策の見直しを議会や市民から提案できるようにするためのツールがあれば教えてほしい。」「パブコメで、意見を述べる際に、過去の評価結果を参考にすることができるような気がする。」等のコメントがありました。

今後のセミナーの内容、意見や希望、感想として、「人口減少や高齢化に伴う課題等のテーマに対する施策について、参考になる情報を提供してほしい。」「県や市町村でしっかりと評価を行っている事例を対象に、その内容について、数値目標に対する評価か、数値以外の成果に注目しているか、プロセスについての評価なのかなど、読み込んでみると理解が深まるかもしれない。」という意見が寄せられました。

